令和 6 年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成団体	秋田県大館市
事業細目名	ホストタウン国際交流
事業名	ボッチャのまち大館国際交流事業
助成金額	4,989,000 円

■調査内容

令和 6 年度地方公共団体スポーツ活動助成（ホストタウン国際交流）で秋田県大館市が行っている「ボッチャのまち大館国際交流事業」の実施状況について調査を行いました。

秋田県大館市は、東京パラリンピックのホストタウンをきっかけにタイ王国と深い関係性を築き、令和 4 年度には対面形式でホストタウン国際交流イベントを行った実績があります。

今回、スポーツくじ助成金を申請した理由は、ホストタウン国際交流事業を行うにあたり、タイ王国からの選手を招く際の財源を確保するためとしておりました。

調査当日は、「第 5 回はちくんオープン」として大会が開催され、ホストタウン相手国を含め、台湾や日本のナショナルチームからそれぞれ選手 2 名、介助者 2 名を招き、各選手が障がいを補うための器具を用いて投球している様子でした。一般の参加者は、県内外から 202 名（50 チーム）が集まり、リーグ戦形式にて決勝ラウンド進出を目指し来場されておりました。

ホストタウン国際交流としての活動は、プログラムの一部にエキシビションマッチが組まれており、解説者が選手の特徴や各国の応援方法などの説明を交えながら交流を深めていました。大会運営においては大館市職員とボランティアや審判が協力をして、参加者が競技に集中できる環境を整備している様子も見られ、大会期間中は「椅子に座って投球する」というルールを取り入れて高齢者や障がい者の方へ配慮した運営もしておりました。

■助成の意義

助成金を受けることでホストタウン相手国を大館市に招致する際の渡航費や運営スタッフに係る諸謝金などに活用することができたとのことです。それにより、スポーツを通じた国際交流が可能となり、市民等と直接触れ合う機会を設けることができたそうです。また、直接触れ合うことによって、言葉の違いや文化の違いなど肌で感じることができ、多様性を受け入れるためのきっかけづくりとなるとともに、国際大会レベルのプレーを間近に見て感じることでスポーツへの関心を高め、市民の健康づくりに寄与するものとして考えられているそうです。

■事業効果を高めるための取り組み

効果を高める取り組みとしては、地元広報誌や大館市のホームページ、SNS などを活用し、イベントの紹介記事として掲載したとのことです。また、市内の小学校 17 校、中学校 8 校及び支援学校 1 校にチラシやポスターなどを配布し、市内全域を対象に周知活動に取り組まれていたようです。その結果、第 1 回大会では 9 チームだった参加数が、今大会では 50 チームまで増えた

そうです。

一方、大館市が抱えている課題として、地域にバリアフリー化されている施設や環境が少なく、高齢者や障がい者の受け入れに工夫が必要であることを挙げられていました。その課題解決のためにも、ホストタウン国際交流やボッチャというスポーツ活動を契機とし、多世代に優しいまちづくりを目指した都市計画や、コミュニティモビリティ(市内定額乗り放題の交通)のサービス強化など共生社会の実現を目指すことで、事業の実施体制強化も図っているそうです。

■所感

今回調査を行った所感としては、多世代にわたって参加者が見られるホストタウン国際交流事業であったと感じました。また、招待選手との交流を行う工夫として一般社団法人日本ボッチャ協会の強化部担当者の詳しい解説による選手の特徴や各国の応援方法など、事業効果を高めるための取り組みによって参加者を楽しませていたことがとても印象的でした。

今後も、ホストタウン相手国および地域との関係を深め、多世代にわたり誰もが参加できるホストタウン国際交流事業としてさらに発展することを期待しております。

（令和 6 年 11 月 24 日往査）

（写真）第 5 回はちくんオープンの様子	
	